

第1回平滑筋筋電図研究会(昭和34年8月)を顧みて

2012年10月に義父白鳥常男(日本平滑筋学会名誉理事長)が他界してより早や11年が過ぎました。小生は、年に4,5回北仙台の義父の家を尋ね、書斎を少しずつ整理してきました。最近、平滑筋筋電図研究会会員名簿 昭和34年8月31日現在(第1回平滑筋筋電図研究会編)(図1)と醫學書院の綜合醫學 第17巻 第2号 昭和35年2月発行(図2)を見つけました。

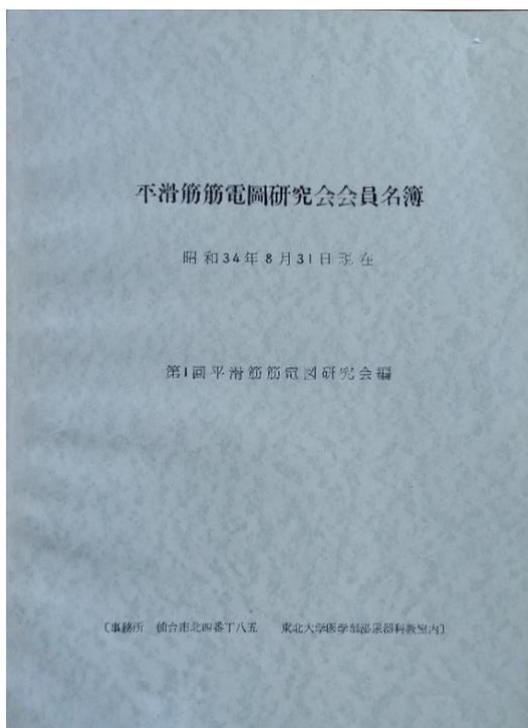


図1 平滑筋筋電図研究会会員名簿

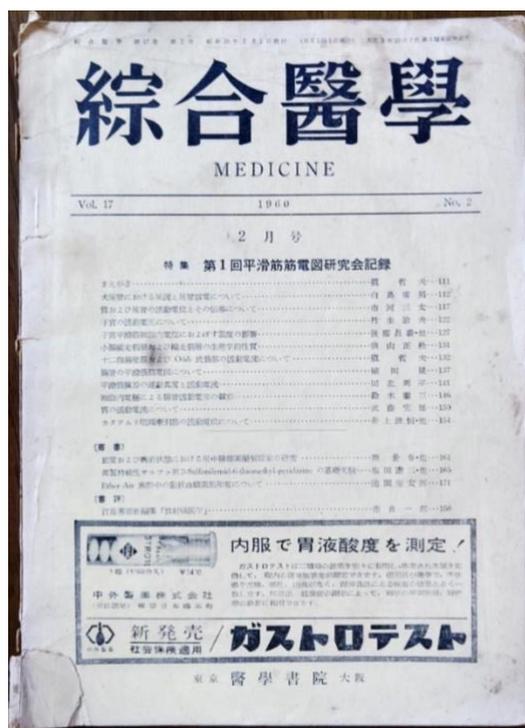


図2 綜合醫學(1960 No.2) 表紙

日本平滑筋学会は昭和34(1959)年8月6日に第1回平滑筋筋電図研究会として発足し、会長は、弘前大学外科教授の榎 哲夫先生が担当され、仙台市の東北大学医学部中央講堂で開催されています。名簿の巻頭文として榎 会長は以下のように述べられています。

平滑筋筋電図研究会設立にあたり

去る6月5・6日弘前市で行われた第12回筋電図学会に於いて東北大白鳥氏より平滑筋筋電図研究会を作り研究推進の基礎を作ってみてはとの提案があり、評議員会に於いて多数の賛成を得る結果となりました。

私は時の筋電図学会総会の会長であり、又平滑筋筋電図の研究を続けてきた一人として、早速発起人を挙げ相談いたしました処、差当り東北大学武藤完雄教授、本川弘一教授、穴戸仙太郎教授、鈴木泰三教授に中心になって戴き、第1回平滑筋筋電図研究会を8月6日に東北大学医学部で開くことが出来ました。

提案があつてから2か月という短期間の開催であつたので、周知方、準備等に不行届の点が多い事とて如何なる研究会が誕生するのか、懸念が無いわけではなかつたのですが、皆様の非常な関心と御協賛を戴き会員申込390名、研究会出席者133名に達する発足にしては珍しい程の盛大な研究会を迎えることが出来ました。是ひとえに従来黙々として本研究を続けてこられた諸研究者の立派な業績の賜と、種々の面で御後援下さった会員諸兄の御蔭によるものと、深く御礼申し上げると共に、主催者側として設立の目的に聊かなりとも副い得た様な気が致し欣快に堪えません。

第1回平滑筋筋電図研究会を期にして将来本研究が飛躍的に発展する事が出来る様会員諸兄の御推進を御願ひ致して止みません。

8月17日 羽田空港にて 有志代表 榎 哲夫

会員申し込み390名、研究会出席者133名は驚きです。この名簿の編集者は義父白鳥常男が担当し、発行所は東北大学泌尿器科教室内と記載されています。白鳥は生前、自分はしばらく外科を離れ泌尿器科に所属していたと申しておりましたが、この時期だったのでしょう。また、総合醫學2月号には、特集 第1回平滑筋筋電図研究会記録として12名の演者の発表内容が記載されています。添付の表紙の写真(図2)は鮮明ではありませんので、以下に転記します。

特集 第1回平滑筋筋電図研究会記録

まえがき	榎 哲夫・・・111
大尿管における尿流と尿管放電について	白鳥常男・・・112
胃および尿管の活動電位とその伝導について	市河三太・・・117
子宮の活動電位について	丹生治夫・・・122
子宮平滑筋細胞内電位におよぼす温度の影響	後藤昌義・他・127
小腸縦走筋層および輪層筋層の生理学的性質	横山正松・・・131
十二指腸壁筋およびOddi氏筋部の活動電流について	榎 哲夫・・・132
腸管の平滑筋筋電図について	植田 隆・・・137
平滑筋臓器の運動異常と活動電流	田北周平・・・141
細胞内電極による腸管活動電位の観察	鈴木泰三・・・146
胃の活動電流について	武藤完雄・・・150
カタツムリ咽頭牽引筋の活動電位について	井上清恒・他・154

発表者の所属を列記しておきます。敬称は略します。白鳥常男(東北大学泌尿器科)、市河三太(昭和医大第二生理)、丹生治夫(京都大教養生理)、後藤昌義(九州大生理)、横山正松(福島医大生理)、榎 哲夫(弘前大外科)、植田 隆(大阪大第一外科)、田北周平

(徳島大第一外科)、鈴木泰三(東北大応用生理)、武藤完雄(東北大武藤外科)、井上清恒(昭和医大生理)です。平滑筋電図研究会ですから基礎系は生理学、臨床系は外科、泌尿器科から出発したことは頷けます。

平滑筋電図研究会会員名簿を閲覧しますと、生理学、外科、耳鼻科以外に、薬理、内科、産婦人科、小児科、整形外科、皮膚科に所属されている先生方も結構いらっしゃいます。

白鳥の書斎の本棚には、日本平滑筋学会誌、昭和40年(第一巻)～昭和62年(第二十三巻)は製本されて並べてありました。(図3a) それ以降の学会誌は、積み上げられていました。日本平滑筋学会誌(Japanese Journal of Smooth Muscle Research)は、1990年26巻6号 p.343-477 第32回日本平滑筋学会講演抄録(II) 伊藤 漸 で終了になっています。これに代わって、英文誌、Journal of Smooth Muscle Research (JSMR)、1991 Volume 27 Issue 1 Pages 1-11 が出版され、現在の2023, Volume 59に至ります。(図3-b,c) 周知の通り、論文の閲覧は、J-STAGE で可能になっています。

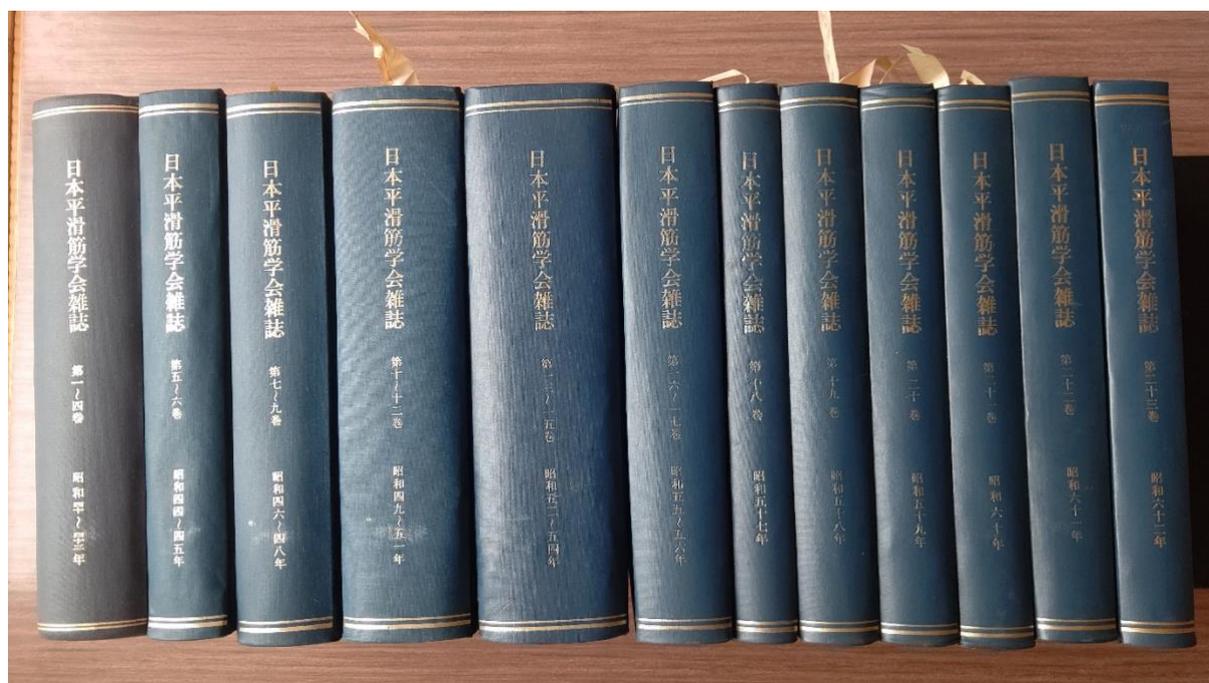


図3a. 日本平滑筋学会誌(第一巻～第二十三巻)

ちなみに、日本平滑筋学会誌(1965年1巻1号)の最初の掲載論文は、榎 哲夫先生の「平滑筋電図の総合研究における合同実験の記録」です。白鳥の本学会誌最初の掲載論文は、白鳥常男, 篠福哲彦, 関根 毅 「胃酸分泌領域におよぼす迷走神経支配の影響」1965年1巻2号 p. 223-228 です。



図 3b 日本平滑筋学会誌 第 26 巻 第 1 号

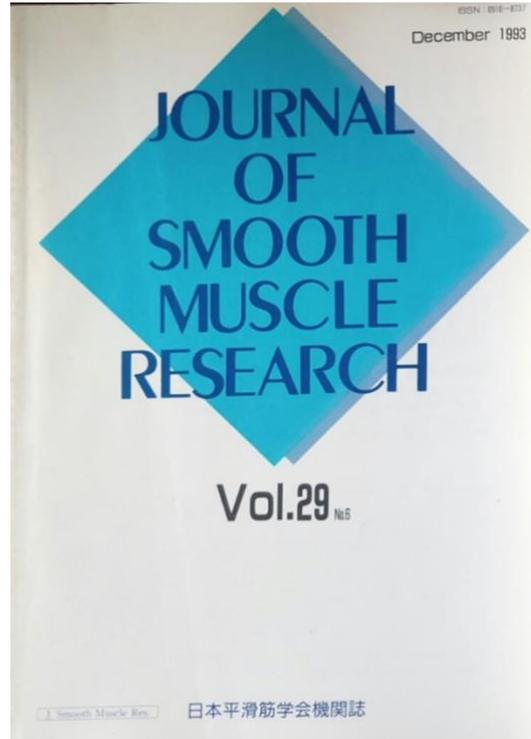


図 3c Journal of Smooth Muscle Research Vol.29 No.6

2015 年度から毎年、白鳥常男賞が若手研究者に贈られています。今後も基礎系・臨床系の数多くの分野で研究に専念されている若手研究者が、本学会に入会され、会の発展に御尽力いただければ幸甚に存じます。

日本平滑筋学会名誉会員

東原正明